

令和5年度 後期学校評価結果について

寒冷の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より教育活動にご理解とご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、令和5年度後期学校評価(12月)の結果がまとまりましたのでご報告いたします。評価結果は、本校の目指す児童像「かしこい子」「やさしい子」「たくましい子」についてそれぞれ評価項目を設け、A・B・Cの3段階で評価しております。目指す児童像ごとに、分析と改善策をまとめました。今回の評価結果を受け、これまでの取組を見直し、よりよい学校教育を目指してまいります。保護者の皆様には、アンケートを通じて、様々なご意見等をいただきました。今後の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

肯定的な評価の割合が

A9.0%以上 B9.0%未満～7.0%以上 C7.0%未満

<学習 かしこい子>

	評価項目	回答者	評価	総合
学習規律	学習規律の徹底に努めている	教員	A	B
	チャイムスタート、あいさつ、姿勢等をしっかり守っている	児童	B	
	基本的な学習習慣が身についている	保護者	B	
学習内容の理解	ねらい(育みたい資質・能力)を明確にした授業を行っている。	教員	A	B
	授業が分かりやすく、「できた」「分かった」と思うことがよくある	児童	B	
	子どもは、授業の内容をしっかりと理解している	保護者	B	
学力	深めの発問や適用問題等で授業の後半部分を充実させ、学力の定着を図る	教員	B	B
	これまで学習してきたことが、しっかりと身に付いていると思う	児童	B	
	子どもには、その学年に必要な学力が身に付いていると思う	保護者	B	
家庭学習	家庭学習の充実に向け、工夫や努力を重ねている	教員	B	C
	家で、学年×10分間の勉強をしている	児童	C	
	子どもは、家庭で、学年×10分間の勉強をしている	保護者	C	

分析・考察

<学習規律>

・教員は学習規律の定着を常に意識しているということが評価に表れている。その結果、児童の88%が学習規律をしっかりと守ることができた。今後も、個別に声をかけたり、できている児童の姿を全体に広めたりするなど子供たちの意識を高め、学習規律が徹底するよう取り組んでいく。

<学習内容の理解>

・ねらいを明確にした授業を教員は心がけている。授業終了時のゴールの姿を明確にしてわかりやすい授業の工夫を行うことで、児童が、できたかどうかを自身で判断することができ、「できた」「分かった」という実感につながっている。肯定的評価は、児童・保護者ともに89%である。今後も、児童の学習の様子を見取り、個々への支援を行いながら、一層ねらいを明確にした授業の実践を目指していく。

<学力>

・児童の学びを深める発問を授業の中に取り入れられなかったり、適用問題を行う時間が足りなかったりするなど、授業後半部分を充実させることが十分にできなかった。今後は、学びを深める発問の吟味や授業のタイムマネジメントをしっかりと行い、授業後半を充実させ、確かな学力の定着を図る。

<家庭学習>

・教員は家庭学習が定着・充実するよう毎日宿題を出している。家庭学習に対する意識の差があり、家庭学習が定着していないところも見られる。継続的な声かけや指導を行いながら、学校と家庭が連携し、家庭学習の定着を進める。

<生徒指導 やさしい子>

	評価項目	回答者	評価	総合
自己肯定感	自分のよさに気づき、自分自身を大切にしようとする児童の育成	教員	A	B
	自分にはよいところがあると思う	児童	B	
	子どもは、自己肯定感が高い	保護者	C	
いじめ	子ども達は、いじめられたり無視されたりすることなく、安心して過ごしている	教員	A	B
		児童	B	
		保護者	A	
やさしさ思いやり	子ども達は、自分から進んであいさつしている	教員	B	B
	先生、友達、地域の人に自分から明るいあいさつをしている	児童	B	
	子どもは、家族や地域の方に対して、自分からあいさつしている	保護者	B	
	友達にやさしくし、困っている友達がいると声をかけ、助けようとしている	教員	A	A
		児童	A	
		保護者	A	
	子ども達は、学校で楽しく過ごしている	教員	A	B
児童		B		
保護者		A		

分析・考察

<自己肯定感>

・学校や家庭において、子供たちの結果だけを見ていることがあると思われる。頑張ったり、しようと試みたりしている過程を認め・褒めることで子供たちの意欲につなげていく。また、子供たちを積極的に認め・褒めることができるよう、お便り等でお知らせし、家庭とともに取組を進める。

<いじめ>

・学校は、未然防止、早期発見・早期対応を心がけ、いじめによる被害を最小限に抑えようと努めている。いじめは、いつでもどこでも起こり得るという意識を持って、全教職員が日々の観察や毎月のアンケートを通して子供たちの様子を把握し、指導していく。

<やさしさ思いやり>

・学校内のあいさつは、来校するお客様等へのあいさつも含め、良くなってきた。お便り等により家庭と連携し、子供たちに「自分から先に」「相手に届く声で」を視点に、あいさつをすることで人となることができることを伝えていく。

・友達に対する優しさは、教員・児童・保護者ともにA評価であった。明光小の児童のよさであり、今後も、子供たちが友達のやさしさや頑張りを伝え合い認めることで、優しい心の育成を図る。

・学校では、大多数の児童が友達と楽しく過ごしている。しかし、一部であれ、楽しく過ごせていない児童がいることから、今後も、児童の様子を注意深く見守っていく。

<特別活動 たくましい子>

	評価項目	回答者	評価	総合
体育的な取組	自ら運動に取り組む児童が育っている	教員	A	B
	自分から進んで運動に取り組んでいる	児童	B	
自主的な行動	より良い生活を目指し、自ら進んで行動している	教員	A	B
		児童	B	

分析・考察

<体力向上>

- ・休み時間等の運動の様子には個人差が見られるが、体育の時間には意識して運動量を確保している。なわとび週間など全校での取組を行い、すべての子供たちの体力向上・健康の保持増進を図る。

<自主的な行動>

- ・自分の思いや考えを言葉で伝える力の育成を教育課程の柱に据え、教育活動を積み重ねてきた。普段の学習の中で培った力を生かして、より良い生活のために考えを出し合い、自ら進んで行動する児童の育成を目指している。学級や学校行事の中で、意図的に声かけし、進んで行動できるよう働きかけていく。

<保護者自由記述欄の中から>

- 子供が楽しく学校生活送れるように、保護者と学校側と一緒にもっと取り組んで過ごせたらいいなと思います。何らかの理由で登校ができないお子さんもいるみたいなので、なんとかしてあげたいと思うのですが、一人でも多くの子供が、みんなと一緒に学校生活を送れたらいいなと思います。
 - ・出欠連絡やお知らせの配信をデジタル化してほしい。時代に合った方法を検討していただけると助かります。
→保護者からメールで欠席連絡ができる保護者連絡ツール「テトル」を3学期から導入しました。
 - ・作品展や展覧会の情報は、選定された児童だけではなく、全ての児童に情報提供して欲しいです。我が子が展示されていなくても、子どもと共に観覧したいと思います。
→今後、学校だより等で作品展や展覧会の情報をお知らせします。
 - ・運動会は1日通しでお願いしたい。スタンプ(組体操)は必ず行って頂きたい。
→練習期間や当日の熱中症対策(9月に暑い日が続く)の視点から、午前中のみで実施しています。白山市の小学校校長会では、9月下旬～10月上旬の平日に実施することで申し合わせをしています。また、実施時期については、小学校校長会よりスポーツ少年団等にもお知らせしています。運動会の種目については、検討しているところです。
 - ・学校でインフルエンザなどの感染症が流行ったら、マスクや手洗いなどを徹底するように保護者宛にメールを流して欲しい。同時に先生から子供たちにも話をして欲しい。
→感染症にかかった児童は、出席停止の措置をとっています。学級・学校内で感染が広がっている可能性があり、学級・学年閉鎖及び学校全体の臨時休業等の措置をとる場合には、お便り・メール等で保護者の方にお知らせします。また、学校では、手洗いの励行・換気の徹底・咳が出るなどの場合はマスクをすることなど、子供たちに感染症の予防について指導しています。